

# 福島再生加速化交付金 (福島定住等緊急支援(福島健康不安対策事業))

## 事業概要・目的

- 震災から12年が経過してもなお、原子力災害に起因する放射線による健康不安が根強い。
- 未だ避難生活を余儀なくされている方々を中心に、健康リスクの低減方策が喫緊の課題。
- 健康不安の解消に向けて、万が一疾病が認められた場合、迅速かつ最先端の治療を可能とする医療供給体制が不可欠であり、特にがん等への不安を解消するための万全の備えが必要。



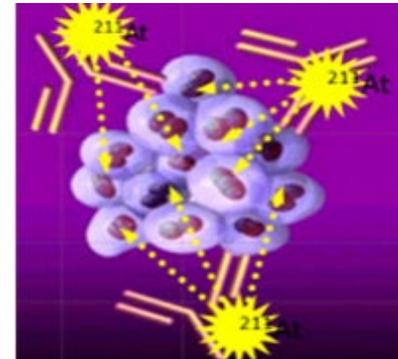
- 福島県立医科大学が実施する、アスタチンによる放射性治療薬の研究開発を支援することにより、臨床現場での早期の治療実現を図り、福島県における健康不安の解消、健康面の安全・安心の確保に直接寄与する。

### <福島復興再生基本方針>

- 福島県立医科大学が推進する、放射線医学、最先端医療・診断や医薬品等の研究開発の加速化に向けた支援を引き続き実施する。

## 事業イメージ・具体例

- がん等の悪性腫瘍に対する新たな治療薬として期待される、アスタチン( $\alpha$ 線核種)を用いた放射性治療薬の研究開発を進める。



$\alpha$ 線ががん細胞を攻撃しているイメージ

- 具体的には、令和5年度において、当該放射性治療薬等の臨床試験(医師主導試験)の実施等を支援する。



医療用中型サイクロトロン

## 資金の流れ



※県民健康管理基金の積み増し

## 期待される効果

- 浜通り等医療機関での画期的先端治療実現による医療基盤、地域経済への寄与
- 県民の健康不安の解消
- 放射線のプラス面の情報発信による風評被害の払拭、福島復興の国内外発信に貢献
- 今後の福島国際研究教育機構における放射線科学・創薬医療分野の研究への寄与、浜通り地域への研究者等呼び込みによる定住・交流人口拡大